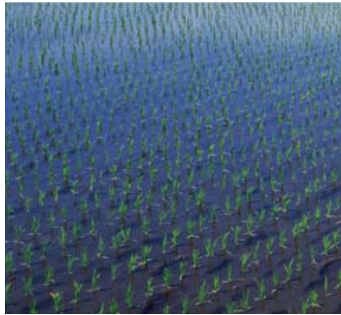


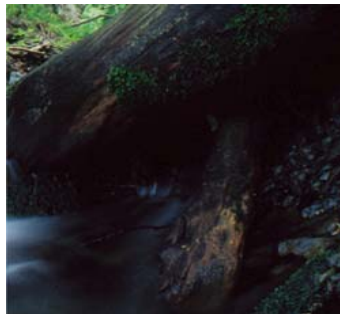


農林中央金庫

The Norinchukin Bank

2009年3月期通期決算 決算概要説明資料

2009年5月27日



～ 金融市場全体のストレス拡大の中、保守的な財務運営を実施 ～

■ 経常損失6,127億円, 当期純損失5,657億円

- 世界的な金融市場の混乱が継続かつ拡大し、保有する証券化商品・株式等において減損処理が発生したことが主因

■ 中期的な業務運営の基本方針である「経営安定化計画」を決定、会員からの大規模な増資を実施

- 安定・安全を重視し自己資本に余裕を持った財務運営と、協同組織中央機関としてのより一層の機能発揮を志向。計画期間中の経常利益は500億円～1,000億円／年を計画
- 会員から1兆9千億円規模の資本調達を実施

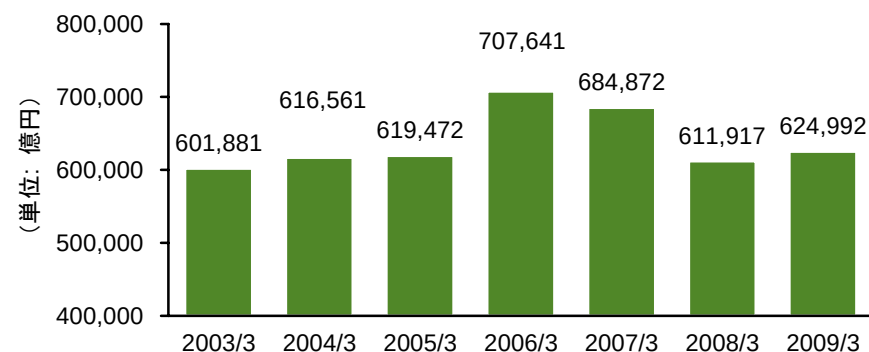
■ 自己資本比率15.65%, Tier I比率9.61%(速報値)

- 自己資本比率は前年度末比3.10%上昇。厳しいストレス環境においても安定的な財務運営を可能とする自己資本基盤を構築

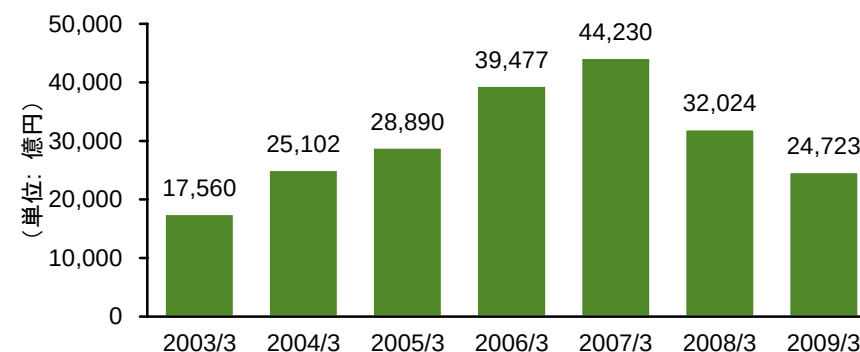
～ 歴史的な市場ストレスの発生 ～

- 市場流動性の極端な低下等の世界的な金融市場の混乱による歴史的な市場ストレスが発生

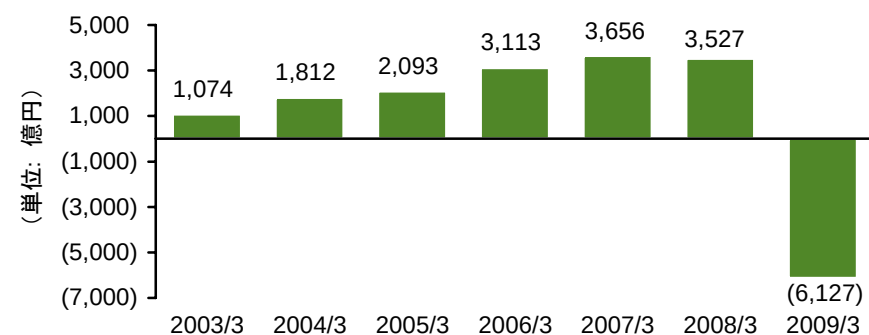
総資産額



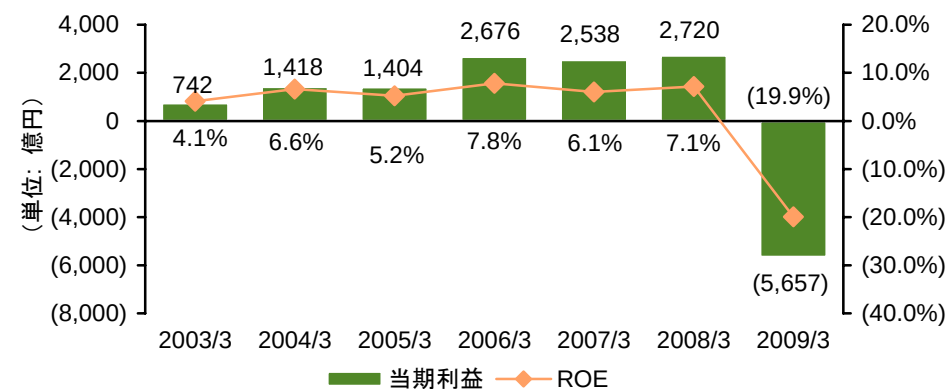
純資産額



経常利益



ROE及び当期利益



注: 2009年3月末現在, 単体ベース。2006年3月期以前の純資産額のデータは資本の部合計ベース
出所: 農林中央金庫

損益計算書サマリー(単体)

農林中央金庫

～ 金融市場混乱の影響により当期損失～

- 世界的な金融市場の混乱が継続かつ拡大する中、保有有価証券の減損処理に加え、安定性・安全性を重視した財務運営(リスクアセットの縮小等)による積極的な損失処理(売却損等)を行ったことを主因に、6,127億円の経常損失

(単位: 億円)	2008年 3月期	2009年 3月期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
1 経常収益	26,257	14,157	-12,100	-46.0%
2 うち資金運用収益	19,363	10,134	-9,229	-47.6%
3 うちその他業務収益	3,113	1,114	-1,999	-64.2%
4 うちその他経常収益	3,640	2,767	-872	-23.9%
5 経常費用	22,730	20,284	-2,445	-10.7%
6 うち資金調達費用	17,323	10,916	-6,407	-36.9%
7 うちその他業務費用	3,050	5,377	2,327	76.3%
8 うち事業管理費	1,052	1,079	26	2.5%
9 うちその他経常費用	1,151	2,800	1,649	143.2%
10 経常利益(損失)	3,527	-6,127	-9,654	-273.7%
11 特別利益	656	110	-546	-83.1%
12 特別損失	19	22	3	16.1%
13 税引前純利益(損失)	4,164	-6,039	-10,203	-245.0%
14 純利益(損失)	2,720	-5,657	-8,377	-307.9%

- 金利低下や投資信託の運用利回り低下により、資金運用収益は減少

- 金銭の信託運用益2,374億円(前年同期比717億円減)

- 売却損の合計1,850億円(前年同期比983億円増)
(国債等債券売却損1,057億円, 株式等売却損793億円)
- 償却の合計3,466億円(前年同期比1,051億円増)
(国債等債券償却3,165億円, 株式等償却300億円)

- 金銭の信託運用損899億円(前年同期比818億円増)
- 与信関係費用742億円(前年同期比705億円増)

注: 2009年3月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

運用・調達利回りの状況(単体)

農林中央金庫

～ 運用利回りの低下により利回り差縮小 ～

■ 欧米における金利低下があったが、運用利回りの大幅低下を主因に利回り差縮小

	平均残高(単位: 億円)			歩合(単位: %)		
	2008年 3月期	2009年 3月期	前年同期 比増減額	2008年 3月期	2009年 3月期	前年同期 比増減幅
1 (運用調達利回り差)				0.54	-1.00	-1.55
2 (運用)	647,768	607,979	-39,788	3.83	1.78	-2.04
3 貸出金	120,509	93,825	-26,684	1.21	1.29	0.08
4 有価証券等	473,023	426,246	-46,777	4.78	2.06	-2.71
5 うち円貨建有価証券	170,186	160,236	-9,949	2.49	0.27	-2.21
6 うち外貨建有価証券	302,837	266,009	-36,827	6.06	3.14	-2.92
7 特定取引資産	316	226	-90	2.66	5.82	3.16
8 短期運用資産等	37,537	72,959	35,421	1.57	0.93	-0.63
9 (調達)	647,768	607,979	-39,788	3.28	2.79	-0.49
10 信連等調達	379,490	381,523	2,032	0.96	1.02	0.05
11 農林債	46,421	50,213	3,792	0.94	1.14	0.19
12 市場・対顧調達	170,303	126,640	-43,662	3.59	1.92	-1.67
13 うち円貨市場調達	34,239	23,998	-10,241	0.92	1.05	0.13
14 うち外貨市場調達	122,524	91,735	-30,788	4.70	2.34	-2.35

■ 有価証券等の利回り低下や有価証券売却損、償却等を主因に運用利回り低下

■ 外貨建て運用については、外貨市場調達のほか、円資金を担保として外貨を調達

■ JA貯金の安定的な伸長を背景に増加

■ 調達の中心である、信連等からの預金調達のコストは横ばい

■ 欧米における金利低下等により、外貨調達コストは低下

注: 2009年3月期, 単体ベース。有価証券等は、金銭の信託、買入金銭債権を含みTB・FBを除く
出所: 農林中央金庫

貸借対照表サマリー(単体)

農林中央金庫

～ 保守的なポートフォリオ運営～

■ 総資産は、市場運用ポートフォリオのリバランス(債券へのシフト)により若干増加

(単位: 億円)	2008年 3月末	2009年 3月末	前期比 増減額	前期比 増減率
(資産の部)				
1 貸出金	97,956	109,478	11,521	11.7%
2 有価証券	362,623	395,588	32,964	9.0%
3 金銭の信託	79,636	56,539	-23,096	-29.0%
4 現金預け金	10,950	27,633	16,682	152.3%
5 その他	60,749	35,753	-24,996	-41.1%
6 資産の部合計	611,917	624,992	13,075	2.1%
(負債の部)				
7 預金	388,133	375,015	-13,117	-3.3%
8 譲渡性預金	5,380	3,212	-2,167	-40.2%
9 農林債	48,221	52,550	4,328	8.9%
10 借入金	13,019	58,736	45,716	351.1%
11 その他	125,137	110,755	-14,382	-11.4%
12 負債の部合計	579,892	600,269	20,377	3.5%
(純資産の部)				
13 資本金	20,160	34,213	14,053	69.7%
14 資本剰余金	250	250	-	-%
15 利益剰余金	14,356	7,881	-6,475	-45.1%
16 その他	-2,741	-17,621	-14,880	542.7%
17 純資産の部合計	32,024	24,723	-7,301	-22.8%

■ 統合的リスク管理に基づく市場運用ポートフォリオのリバランス等により、債券を中心とした安定資産が増加(国債等を中心に有価証券は前期比3兆2,964億円増、金銭の信託は株式の減少により同2兆3,096億円減)

■ 太宗を占める会員からの預金が調達の基盤

■ 劣後ローンの調達、有担保外貨調達等により増加

■ 会員からの後配出資増資

■ 純資産額の減少(前期比7,301億円減)
ー その他有価証券評価差額金減少(前期比1兆5,753億円減)

注: 2009年3月末現在、単体ベース
出所: 農林中央金庫

有価証券等の時価情報(単体)

農林中央金庫

～有価証券等の評価損は拡大～

- 有価証券等の評価差額は2兆929億円の評価損(前期比1兆6,617億円減)
- 減少の主因は、証券化商品等のクレジット投資関連商品や株式等の過去に例のない価格下落

(評価差額 単位: 億円)		2008年 3月末	2009年 3月末	前期比 増減額
【その他の有価証券】				
1	株式	1,503	234	-1,268
2	債券	-983	474	1,457
3	国債	-1,011	469	1,480
4	地方債	2	1	-0
5	社債	25	3	-21
6	その他	-5,963	-18,081	-12,118
7	外国債券	-2,899	307	3,206
8	外国株式	-33	-140	-107
9	その他	-3,029	-18,248	-15,219
10	うち投資信託	NA	-18,196	NA
11	小計 ①	-5,443	-17,373	-11,930
【その他の金銭の信託】				
12	その他の金銭の信託 ②	1,131	-464	-1,595
【保有目的を変更した有価証券】				
13	その他有価証券から満期保有目的の債券へ 変更したもの ③	-	-3,090	-
14	合計 (①+②+③)	-4,312	-20,929	-16,617

■ このうち、証券化エクスポージャーの評価損3,575億円

■ 内外株式・クレジット投資等を中心とする投資信託の評価損が拡大

注1: その他有価証券/その他/その他に含まれる投資信託については2009年3月末分より開示

注2: (1) 変動利付国債の時価については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を時価とみなせない状態にあると判断し、当年度末については、経営者の合理的な見積もりに基づく合理的に算定された価額をもって貸借対照表計上額としている。これにより、「有価証券」は4,256億円、「その他有価証券評価差額金」は4,256億円増加している。

(2) 一部の外国債券(証券化商品等)の時価については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を参照して算定されているブローカー等の第三者から入手した評価価格をもって時価とみなせない状態にあると判断し、当年度末については、経営者の合理的な見積もりに基づく、合理的に算定された価額をもって貸借対照表計上額としている。これにより、「有価証券」は1兆947億円、「その他有価証券評価差額金」は5,012億円増加するとともに、「その他業務費用」および「経常損失」は5,935億円減少している。

注3: なお、満期保有目的の債券の貸借対照表計上額と時価との差額は11億円(プラス)。

2009年3月末現在、単体ベースの貸借対照表計上額
出所: 農林中央金庫

自己資本の状況(単体:速報値)

農林中央金庫

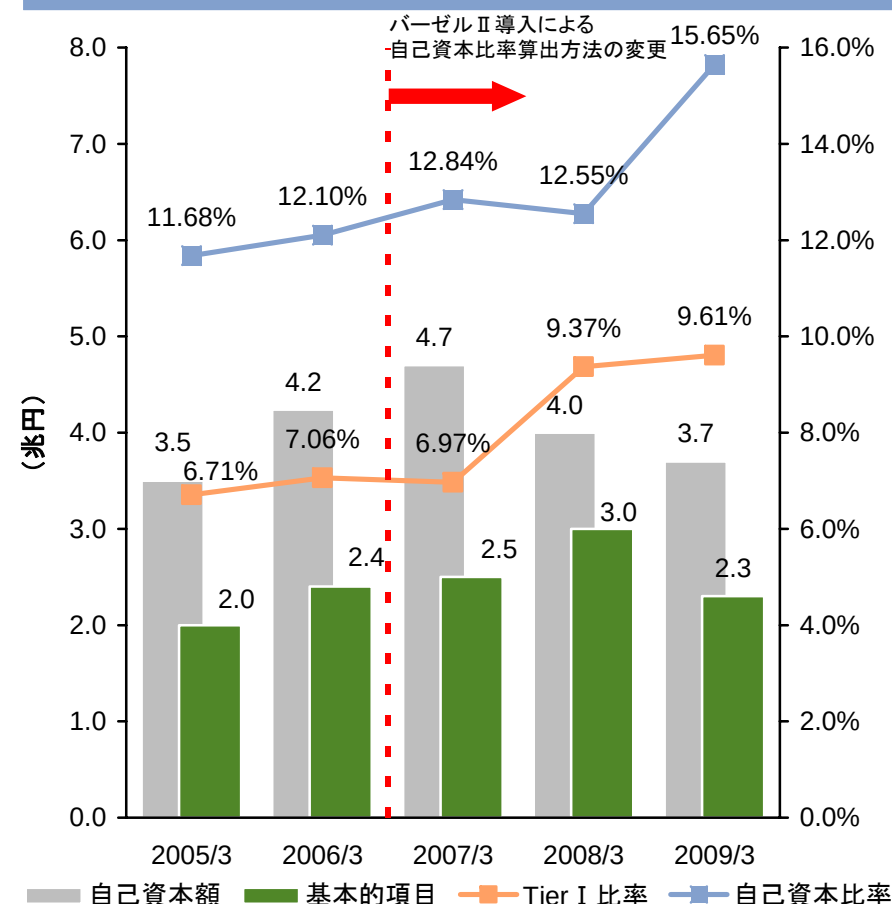
～ 自己資本比率は健全な水準を維持 ～

- 保守的なポートフォリオ運営により積極的にリスクアセットを削減。リスクアセットは前期比8兆2,808億円減少し23兆9,171億円
- 更なるストレス環境においても安定的な財務基盤を確保すべく、会員からの増資を実施。自己資本比率は15.65%に上昇

自己資本の内訳(単位:億円)

	2008年 3月末	2009年 3月末	増減
1 基本的項目(Tier I)	30,198	23,006	-7,192
2 うち資本金および資本剰余金	20,410	34,463	14,053
3 うち利益剰余金	13,531	7,886	-5,645
4 うちその他有価証券評価差額金	-2,965	-18,718	-15,753
5 補完的項目(Tier II)	13,255	17,700	4,444
6 うち永久劣後債務	9,637	14,760	5,123
7 うち期限付劣後債務および期限付優先出資	3,376	2,707	-669
8 控除項目	3,045	3,271	226
9 自己資本額	40,409	37,435	-2,973
10 リスク・アセット	321,979	239,171	-82,808
11 自己資本比率(国際統一基準)	12.55%	15.65%	3.10%
12 基本的項目(Tier I)比率	9.37%	9.61%	0.24%

自己資本比率の推移



注: 2009年3月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

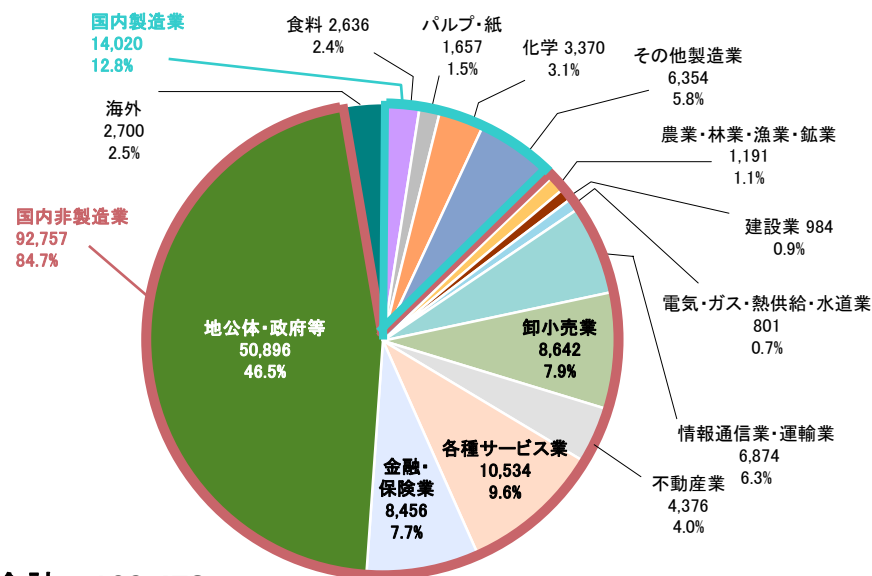
貸出業務の状況(単体)

農林中央金庫

～ 健全な貸出資産ポートフォリオ ～

- リスク管理債権額は引き続き低い水準。リスク管理債権比率は貸出金残高の増加により若干減少

業種別貸出金残高(単位:億円)

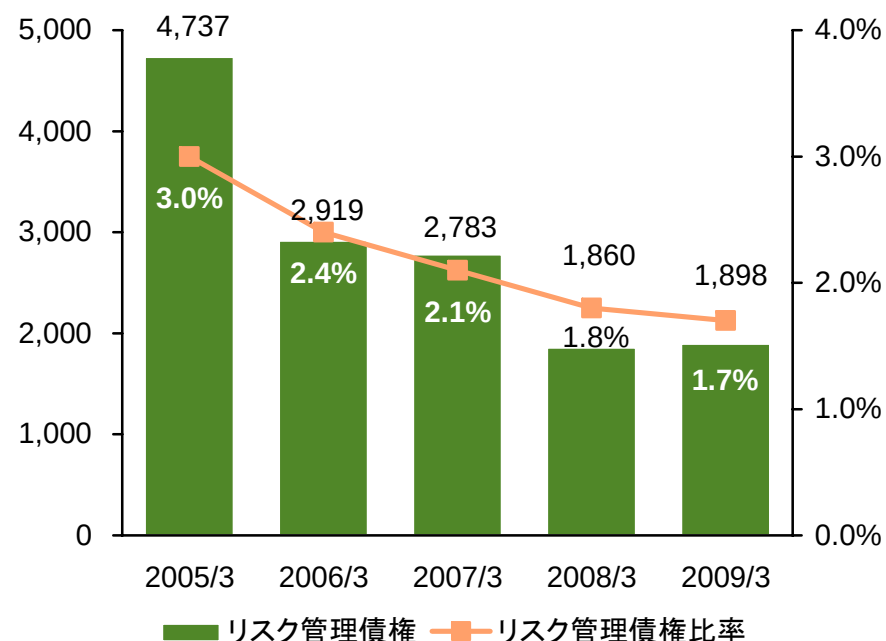


合計: 109,478

貸出先別貸出金残高(単位:億円)

項目	残高	%
1 系統団体	6,328	6%
2 関連産業法人	37,408	34%
3 その他(地公体・政府・金融機関ほか)	65,741	60%
4 合計	109,478	100%

リスク管理債権の推移(単位:億円)



注: 2009年3月末現在、単体ベース
上記のほか、金銭の信託において信託財産を構成している貸出金のうち、リスク管理債権が163億円ある。
出所: 農林中央金庫

市場運用資産ポートフォリオの状況(単体)

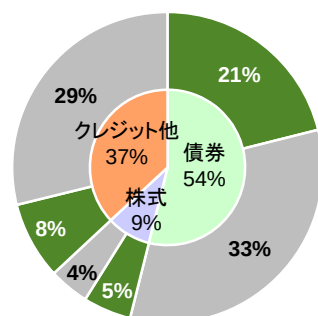
農林中央金庫

～ 市場運用資産ポートフォリオの内訳 ～

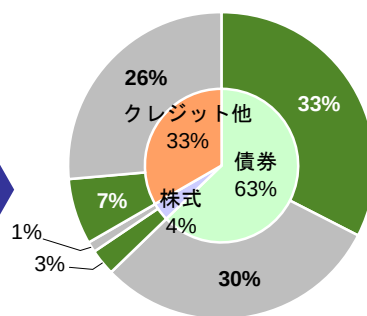
- 国際分散投資のコンセプトのもと、市場環境に応じて市場運用ポートフォリオ(約45兆円)をリバランスすることにより、中長期的な観点からの財務運営を実践。債券、株式、クレジット資産等の主要アセットクラスについて、通貨・地域等のバランスを考慮しつつ最適なアセットミックスの構築を志向
- 2009年3月期においては、統合的リスク管理に基づき、市場混乱に対応した保守的な財務運営を実施

市場運用資産のリスク別内訳

2008年3月末



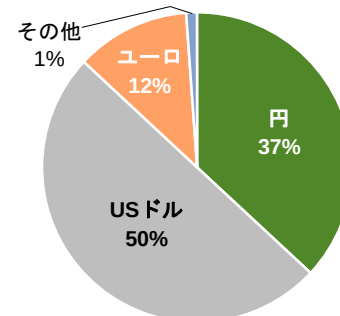
2009年3月末



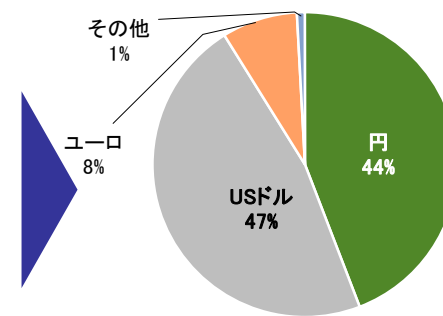
■ 国内 ■ 海外

市場運用資産の通貨別内訳

2008年3月末

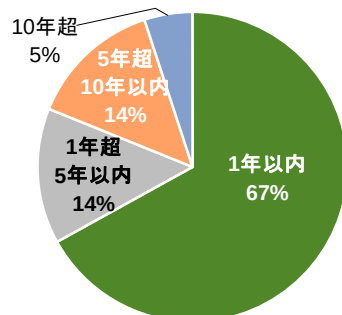


2009年3月末

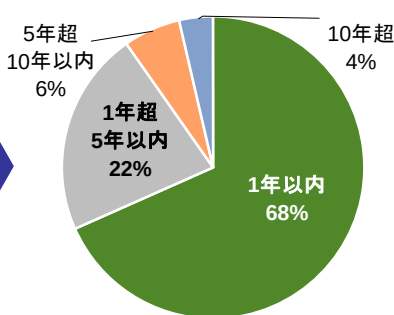


市場運用資産(満期がないものを除く)の金利更改満期別内訳

2008年3月末

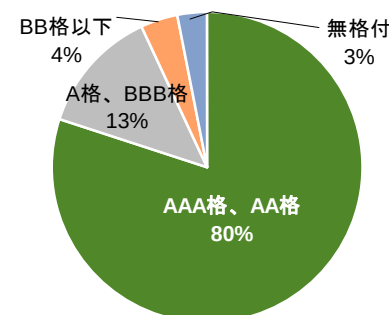


2009年3月末

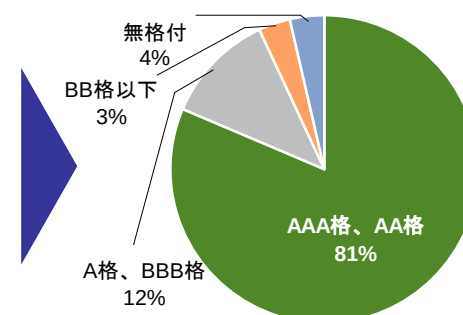


市場運用部門総資産の格付別内訳

2008年3月末



2009年3月末



注: いずれのデータも2009年3月末現在、単体ベース
出所: 農林中央金庫

証券化商品への投資について(単体:速報値)

農林中央金庫

～ 証券化エクスポージャー(注1)(注2) ～

■ 証券化商品のポートフォリオは①高格付の、②一次証券化商品(資産担保証券(ABS)やローン債務担保証券(CLO)等)が中心

1 商品区分別エクスポージャー

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	前期比
1 資産担保証券(ABS)	24,531	46	1,241	475	198	26,494	8,078
2 住宅ローン担保証券(RMBS)(注3)	5,469	436	396	180	42	6,525	-1,951
3 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	3,473	793	984	635	142	6,028	-1,464
4 債務担保証券(CDO)	14,860	2,292	2,122	1,092	1,579	21,947	-3,211
5 ローン債務担保(CLO)	13,439	1,809	1,970	662	1,199	19,081	-897
6 証券化商品担保(注4)	929	356	86	420	379	2,172	-1,951
7 債券担保(CBO)他	491	126	65	10	0	693	-363
8 その他	0	0	0	9	693	703	-157
9 合計	48,335	3,569	4,745	2,393	2,657	61,700	1,293

3 通貨別エクスポージャー

(単位: 億円)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額(注5)
1 米ドル	43,692	6,286	-2,547	600	-2,037
2 ユーロ	8,079	-2,275	-802	400	-582
3 英ポンド	443	-198	-22	21	-4
4 円	9,484	-2,518	-202	-146	-436
5 合計	61,700	1,293	-3,575	875	-3,060

2 商品区分別評価差額・損失額

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	前期比	損失額(注5)
10 資産担保証券(ABS)	-493	-7	-130	-29	-26	-688	-153	0
11 住宅ローン担保証券(RMBS)(注3)	-77	-172	-63	-46	0	-360	180	-606
12 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	-222	-45	-76	-64	-32	-440	86	-8
13 債務担保証券(CDO)	-963	-402	-428	-165	-126	-2,085	730	-2,410
14 ローン債務担保(CLO)	-697	-225	-384	-96	-126	-1,531	404	-369
15 証券化商品担保(注4)	-176	-163	-28	-68	0	-437	369	-1,932
16 債券担保(CBO)他	-89	-12	-14	0	0	-117	-43	-107
17 その他	0	0	0	0	0	0	30	-34
18 合計	-1,757	-627	-698	-305	-185	-3,575	875	-3,060

〔参考〕証券化エクスポージャーの時価評価について

証券化エクスポージャーには、有価証券、買入金銭債権、貸出金の残高の他、未収収益やコミットメントの未実行残高等を含む。

実際の売買事例が極めて少ない証券化商品(ABSのうちクレジットカード債権担保ABS、CDOのうちCLO等)については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を参照して算定されているブローカー等の第三者から入手した評価価格の時価とみなせない状況にあると判断し、経営者の合理的な見積もりに基づく合理的に算定された価額を時価としている。(6ページ 注2(2)参照)

こうした時価評価の適切性の検証等については、取引とは独立したミドル部門が行っている。

注1: 証券化商品の定義は、パーゼルⅡにおける証券化エクスポージャーを基本とした内部定義による。サブプライム関連商品を含む。

注2: 証券化エクスポージャーは損失額、評価損の反映後。一部のCMBSにおいてパーゼルⅢにおける特定貸付債権に含まれるエクスポージャーが証券化エクスポージャーと別に1,275億円あり(評価差額△12億円)。

注3: サブプライムRMBSを含む。米国住宅金融公社関連のモーゲージ担保証券を含まない。

注4: ABS-CDO、CDO of CDO's等の2次、3次証券化商品。サブプライムRMBSを含むABS-CDO、CDO of CDO'sを含む。

注5: 損失額は減損額と複合金融商品の当年度損益に含まれる評価損の合計。

注: 2009年3月末現在、単体ベース

出所: 農林中央金庫

サブプライム関連商品, その他商品への投資について(単体:速報値)

農林中央金庫

～ サブプライム関連商品, モノライン向け与信, レバレッジドローン等 ～

■ サブプライム関連商品へのエクスポージャーは1,395億円(損失額1,191億円, 評価差損363億円の反映後)

1. サブプライム関連商品への投資の状況(注1)(単位: 億円)

(1) サブプライム住宅ローン担保証券(サブプライムRMBS:一次証券化商品)(注2)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額
1 AAA	275	-147	-25	87	-219
2 AA	307	-500	-169	69	-132
3 A	178	-95	-61	58	-88
4 BBB	98	-26	-39	9	-68
5 BB+以下	42	11	0	0	-97
6 合計	903	-758	-296	225	-606

(2) サブプライムRMBSを含むABS-CDO(二次証券化商品)(注3)(注4)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額
7 AAA	22	-124	-19	27	0
8 AA	0	-565	0	41	0
9 A	3	-5	0	0	-10
10 BBB	56	-4	-7	2	0
11 BB+以下	196	182	0	0	-305
12 合計	278	-517	-26	71	-316

(3) サブプライムRMBSを含むCDO of CDO's(三次証券化商品)(注5)(注6)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額
13 AAA	163	-237	-39	74	0
14 AA	0	-12	0	8	0
15 A	3	3	0	0	-17
16 BBB	0	0	0	0	0
17 BB+以下	45	45	0	0	-250
18 合計	213	-201	-39	83	-267

(4) サブプライム関連商品計 ((1)~(3)の合計)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額
19 AAA	462	-510	-83	189	-219
20 AA	307	-1,078	-169	119	-132
21 A	185	-96	-61	58	-116
22 BBB	155	-31	-47	12	-68
23 BB+以下	285	239	0	0	-654
24 合計	1,395	-1,477	-363	380	-1,191

注1: サブプライム関連の融資は行っていない。

注2: ピンチテスト別比率は①2004年以前99%、②2005-2006年1%、③2007年以降0%。

注3: ピンチテスト別比率は①2004年以前50%、②2005-2006年30%、③2007年以降20%。

注4: SIVが発行するキャピタルノート0百万円、評価差額なし、減損24百万円を含む。

注5: ピンチテスト別比率は①2004年以前84%、②2005-2006年16%、③2007年以降0%。

注6: サブプライムRMBSを一部でも含むCDO of CDO's。但しサブプライムRMBSの含有率は僅少。

2. モノライン関連商品への投資の状況(注7)(単位: 億円)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額
1 モノラインによる保証付金融商品(注8)	1,654	-282	-434	-180	0
2 証券業務におけるモノライン利用	0	0	0	0	0
3 合計	1,654	-282	-434	-180	0

3. レバレッジドローンへの投資の状況(注9)(単位: 億円)

	エクスポージャー	前期比
4 国内レバレッジドローン	428	-128
5 海外レバレッジドローン	1,559	-346
6 合計	1,987	-474

4. トレーディング等の状況

当金庫はABCP、SIV、レバレッジドローンの組成、引受、トレーディングを行っており、関連する商品のトレーディング勘定での保有や連結非対象としているオフバランス取引は行っていない。ただし顧客企業の資産流動化を目的としたSPCを1件スポンサーしている(与信残高1,012億円)。

5. 米国住宅金融公社関連債券への投資の状況(注10)(単位: 億円)

	エクスポージャー	前期比	評価差額	前期比	損失額
7 エージェンシー・モーゲージ債	20,057	-15,586	1,017	214	0
8 エージェンシー債	12,848	-7,833	660	-59	0
9 合計	32,905	-23,420	1,678	154	0

【参考】 ファンド投資内のサブプライム関連商品の状況(注)

■ サブプライム関連商品を主な投資対象とするファンドの保有はないが、当金庫が運用を委託しているファンドにおいて、サブプライムRMBS(一次証券化商品)が含まれるものがある。(注) ファンド内のサブプライムRMBS残高1,367億円, 評価損益△464億円。

注: ファンド内個別資産が把握できるファンドにおける当金庫調査ベース。

注7: モノラインによる保証付金融商品と別にモノラインのCDS等を含む証券化商品(CDO)を保有。

当該証券化商品の保有額にモノラインのCDS等の比率(含有率)を乗じたエクスポージャーは52億円。

注8: 米国CLO、米国ABS等で裏付資産の保証前格付けはいずれも投資適格相当以上を確保。また被保証商品にサブプライム関連商品はない。

注9: レバレッジドバイアウトを主な資金使途とする貸出で内部管理の定義による。貸倒引当金は84億円。

注10: この他に米国政府全額出資の米政府系機関である政府抵当金庫(ジニーメイ)保証付の住宅ローン担保証券の保有額は5,931億円。

注: 2009年3月末現在、単体ベース

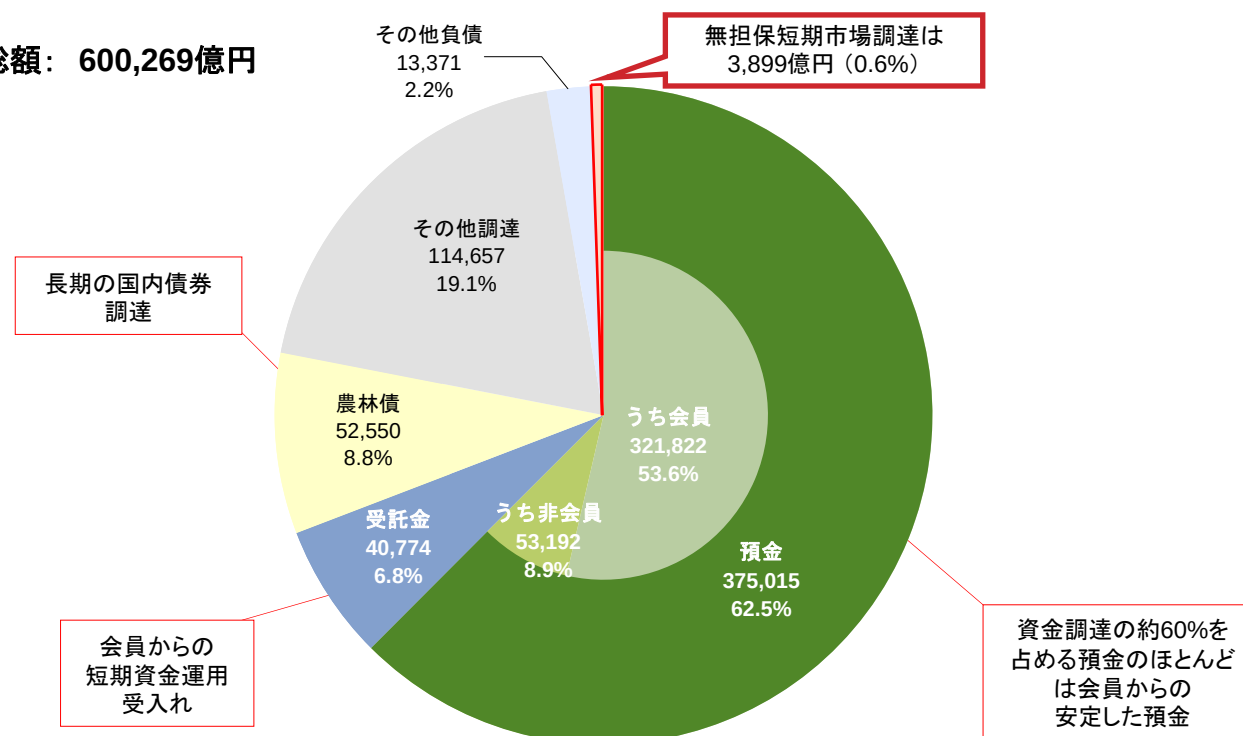
出所: 農林中央金庫

～会員からの預金等により安定した資金調達を実現～

- 負債総額のうち、無担保短期市場調達に相当するものは約0.6%と極めて限定的

負債の種類別内訳

負債総額: 600,269億円



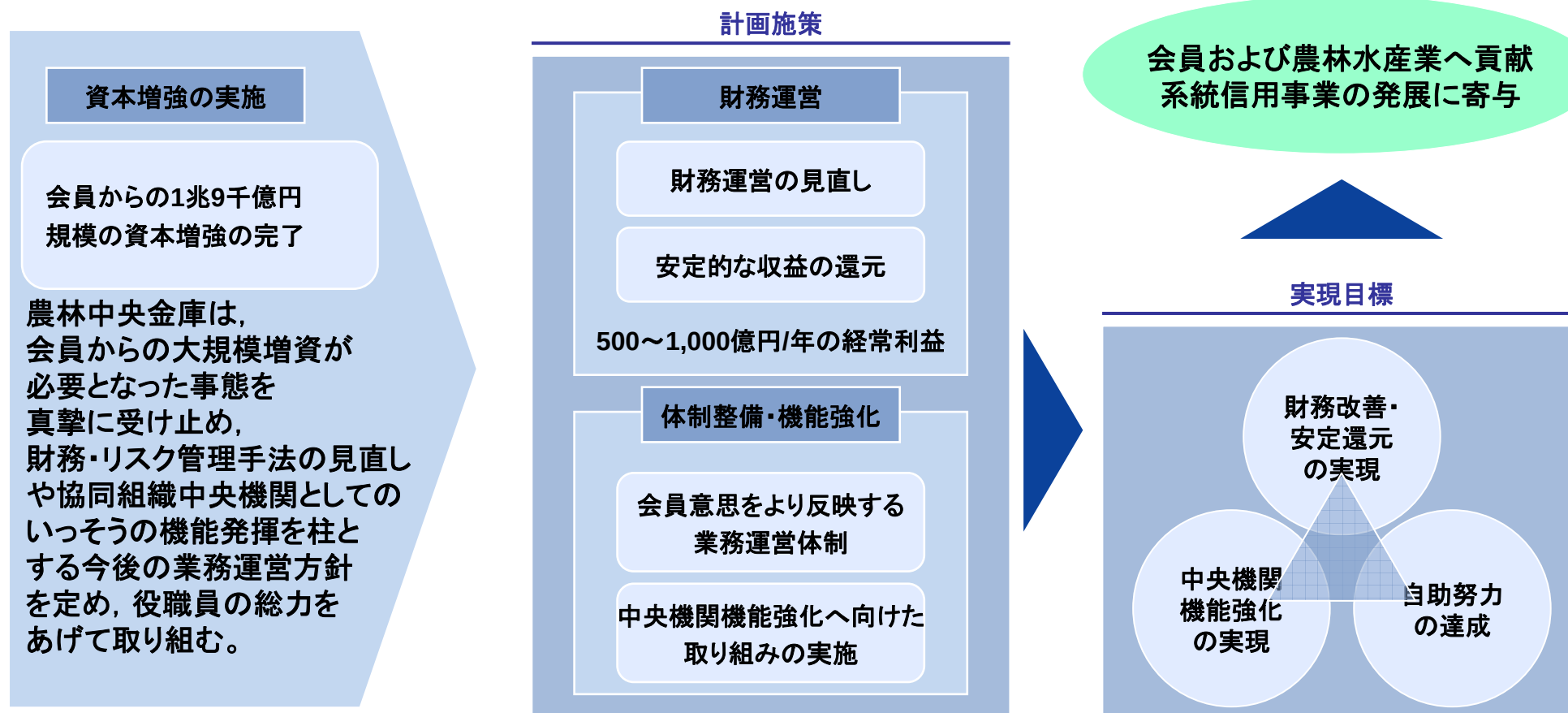
注1: その他調達は有担保調達である売現先勘定・債権貸借取引受入担保金等、借入金(有担保、劣後ローン)を、その他負債は支払承諾、引当金等を、また無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金、無担保コールマネー及び売渡手形を含む。

注2: 2009年3月末現在 単体ベース

出所: 農林中央金庫

～経営安定化計画の概要～

- グローバルな目線で、かつ慎重な投融資スタイルにより、国際的に存在感のある金融機関へ



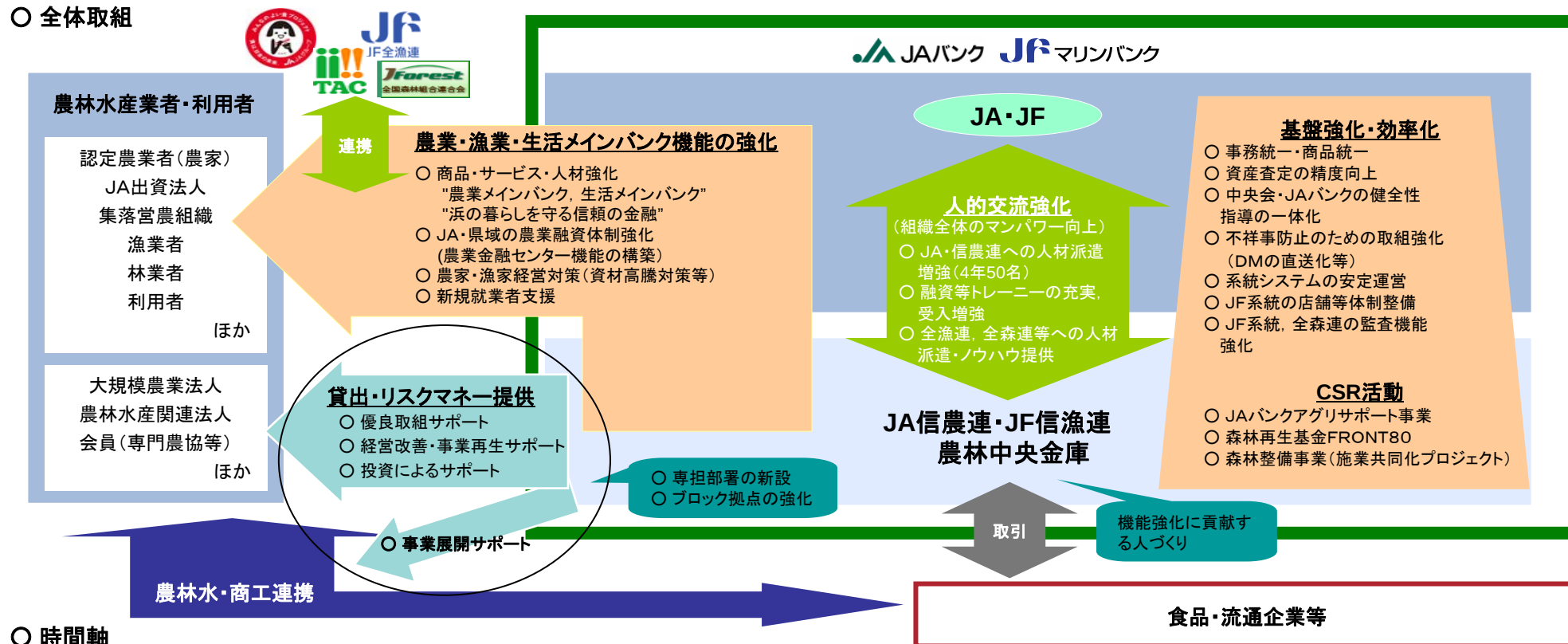
経営安定化計画(2010年3月期～2013年3月期)②

農林中央金庫

～ 協同組織全国連としての一層の機能発揮(イメージ)～

■ 系統組織と一体となって、農林水産金融について多方面の機能発揮を行っていく

○ 全体取組



○ 時間軸



～ 財務運営およびリスク管理手法の見直し ～

- 国際分散投資の質的転換およびリスク管理手法の再構築を図り、安定・安全を重視し自己資本に余裕を持った財務運営を行う

経営安定化計画期間における取り組み

財務運営

- 国際分散投資の質的転換（時価変動リスク管理とポートフォリオ下方耐性の強化等）
- リスク管理手法の見直し（ストレステストの充実等）

資本運営

- 財務運営の安全性およびビジネスモデルの特性に留意した自己資本を維持
- 厳しいストレスおよび将来的な規制動向を想定して高水準の資本水準を維持

体制整備

- 国際分散投資の質的変換を実現するため財務運営・リスク管理について体制整備

連結損益計算書・連結貸借対照表サマリー

農林中央金庫

～ 単体ベース同様, 保守的な財務運営を実施 ～

■ 単体ベース同様, 保守的な財務運営を実施

(単位: 億円)	2008年 3月期	2009年 3月期	前期比 増減額	前期比 増減率
1 経常収益	26,397	14,292	-12,105	-45.8%
2 うち資金運用収益	19,410	10,181	-9,229	-47.5%
3 経常費用	22,765	20,459	-2,306	-10.1%
4 うち資金調達費用	17,324	10,918	-6,405	-36.9%
5 うち事業管理費	1,131	1,155	24	2.1%
6 経常利益(損失)	3,631	-6,166	-9,798	-269.7%
7 特別利益	640	88	-552	-86.1%
8 特別損失	19	22	3	16.1%
9 税金等調整前純利益(損失)	4,252	-6,100	-10,353	-243.4%
10 純利益(損失)	2,768	-5,721	-8,489	-306.6%

(単位: 億円)	2008年 3月末	2009年 3月末	前期比 増減額	前期比 増減率
(資産の部)				
1 貸出金	98,539	110,226	11,687	11.8%
2 有価証券	362,420	395,405	32,985	9.1%
3 金銭の信託	79,645	56,548	-23,096	-28.9%
4 現金預け金	10,969	27,734	16,765	152.8%
5 その他	59,281	36,023	-23,257	-39.2%
6 資産の部合計	610,855	625,939	15,084	2.4%
(負債の部)				
7 預金	388,043	374,928	-13,115	-3.3%
8 譲渡性預金	5,380	3,212	-2,167	-40.2%
9 農林債	48,219	52,520	4,300	8.9%
10 借入金	9,987	56,475	46,488	465.4%
11 受託金	44,011	40,774	-3,237	-7.3%
12 その他	82,913	73,100	-9,812	-11.8%
13 負債の部合計	578,556	601,012	22,455	3.8%
(純資産の部)				
14 資本金	20,160	34,213	14,053	69.7%
15 資本剰余金	250	250	-	-%
16 利益剰余金	14,574	8,035	-6,538	-44.8%
17 その他	-2,685	-17,571	-14,885	554.2%
18 純資産の部合計	32,299	24,927	-7,371	-22.8%

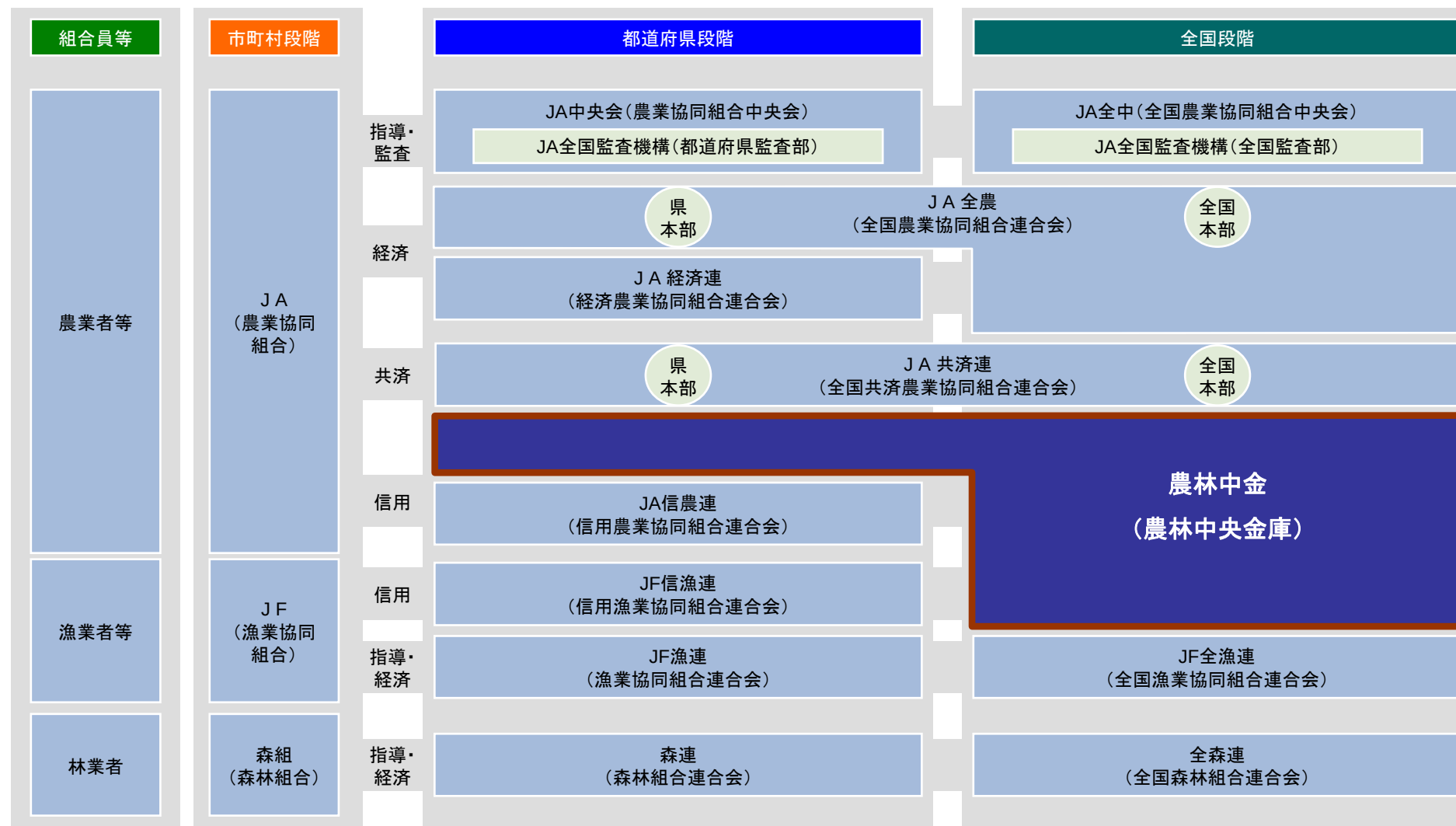
注: 2009年3月末現在
出所: 農林中央金庫

参考資料1 (JAバンク関連)

系統組織の概要

農林中央金庫

～ 主な系統組織の仕組み ～



JAバンクグループの状況①(貯金業務)

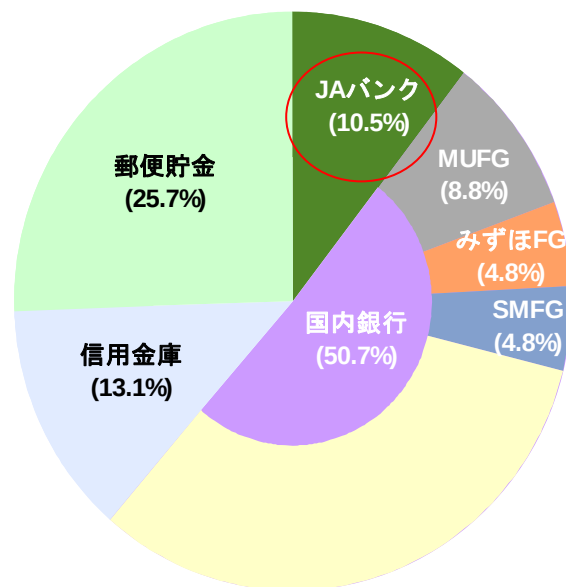
農林中央金庫

～JA貯金の安定的な推移～

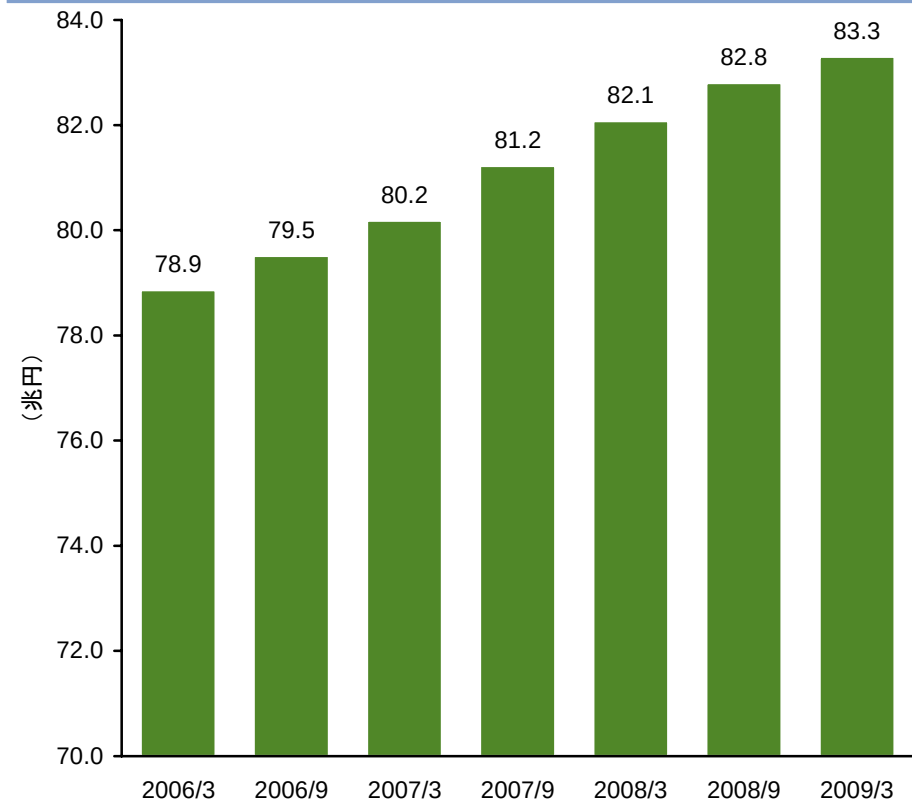
- JAの店舗数は8,910(2009年3月末)に達し、強力な営業基盤とネットワークを有する(2009年4月1日時点のJA数は740)
- JA貯金残高は長期間に亘り、安定的に伸長している

預貯金残高(個人)

個人預貯金残高合計: 707兆円



JA貯金残高の推移



注: 2008年3月末時点。日本銀行資料、全国銀行協会資料、信金中金総合研究所資料、日本郵政公社のディスクロージャー資料、
各行の決算説明資料をもとに農林中央金庫作成。
JAバンク、国内銀行及び信用金庫の残高は個人預貯金、郵便貯金は全貯金額

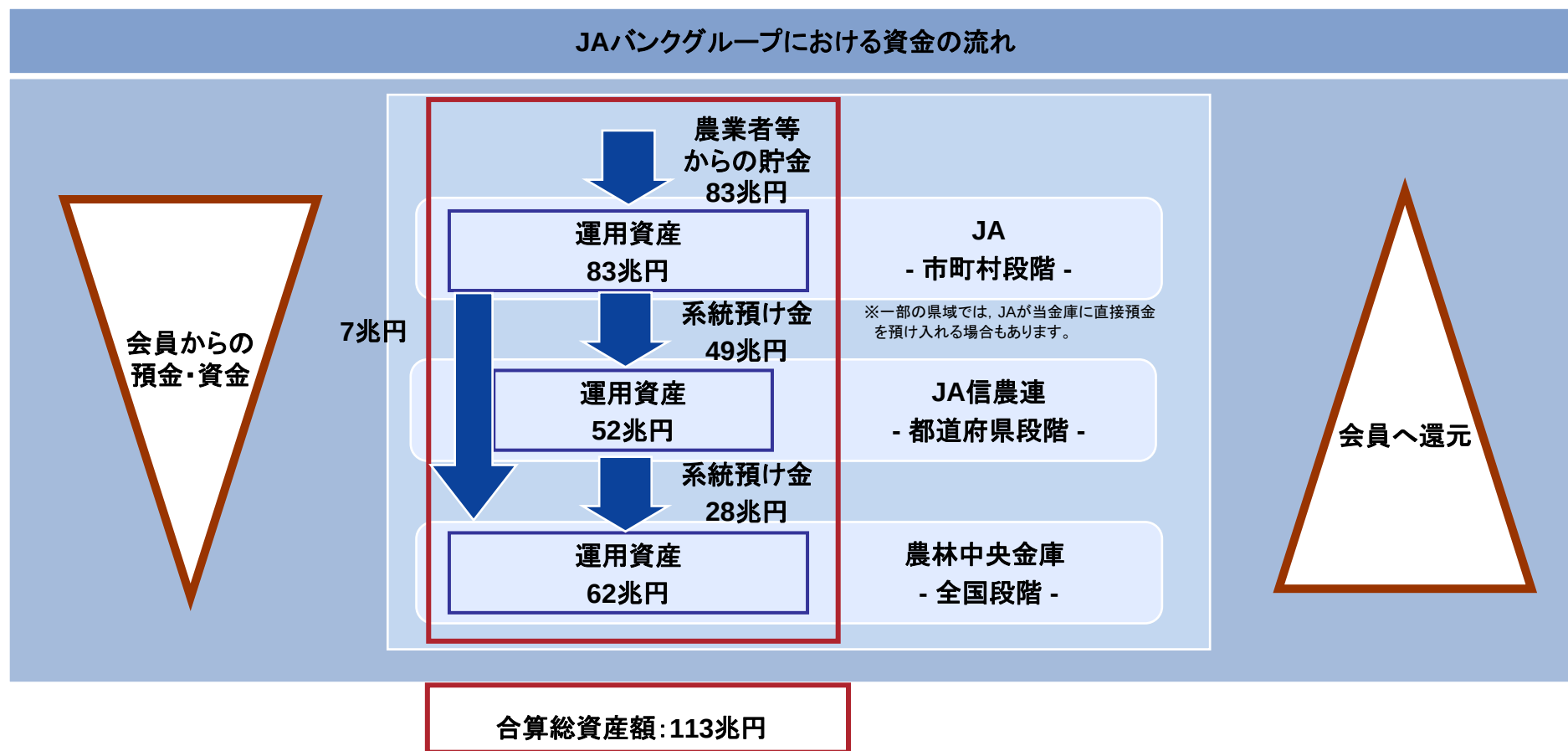
注: JA貯金残高は個人貯金、個人貯金以外(公金・企業等)の合計
出所: 農林中央金庫

JAバンクグループの状況②(資金の流れ)

農林中央金庫

～ JAバンクグループにおける資金の流れ ～

- JAバンクグループ = JA(市町村段階) + JA信農連(都道府県段階) + 農林中央金庫(全国段階)



注: 2009年3月末現在
合算総資産額=運用資産(83兆円+52兆円+62兆円)-預け金(49兆円+7兆円+28兆円)。
出所: 農林中央金庫

～ 我が国金融市場におけるグループの存在感の一層の向上 ～

- JAバンクでは2008年3月期を初年度とする3か年計画「JAバンク中期戦略」の取り組みを着実に進めている

核となる利用者基盤拡充

- 農業の担い手への金融対応強化
- 大口利用者への相談機能の発揮（相続相談、遺言信託等）

リテール市場における競争戦略の展開

- JAバンクローンの伸長
- カード戦略の展開
- 個人貯金・年金推進
- 国債・投信の窓販業務
- 効率的な営業体制の確立

JA・JA信農連における経営管理態勢高度化

- 保有するリスクに応じたリスク管理態勢整備
- 事業推進活動を支えるALM管理態勢整備

- 必要な人材の開発
- 積極的なディスクロ・PR
- 事務・商品の統一、システム効率化に向けた取り組み

2009年3月期における成果（速報値）

- 顧客対面チャネルを活かした個人貯金、年金振込口座の増加（年度末個人貯金残高75兆4,485億円、前年同期比1.5%増）
- 住宅ローンを中心とするJAバンクローンの伸長（住宅ローン残高6兆1,611億円、前年同期比10.8%増）
- 農業担い手に対する融資・相談体制強化、担い手向け融資メニュー拡充

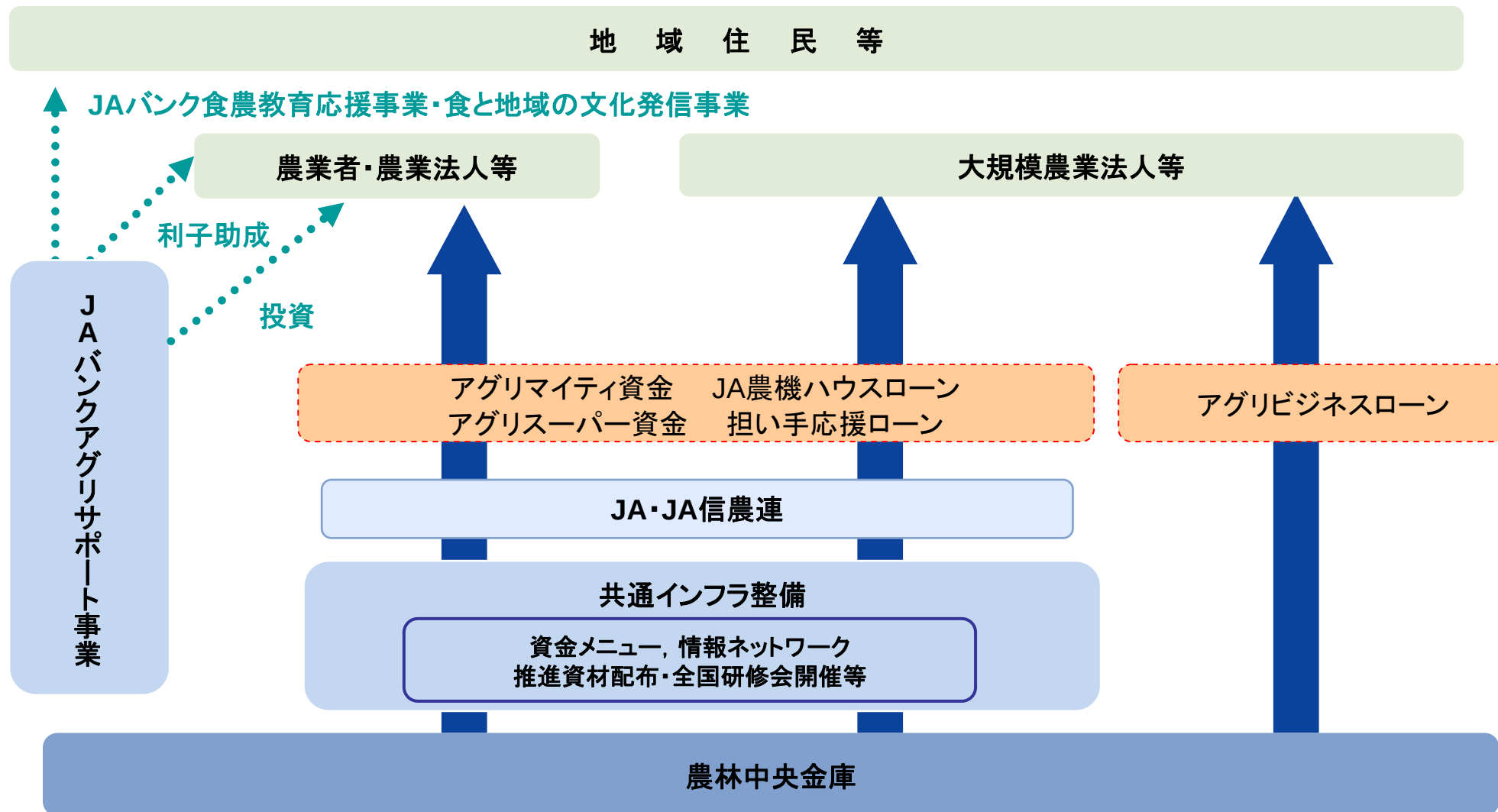
2010年3月期の取組課題

- カード戦略を中心とする家計メイン化への取組強化、年金受取口座指定の獲得を主体とする顧客基盤の拡充
- JA段階におけるALM管理強化等、経営管理態勢の強化
- 社会貢献・地域貢献の実践（JAバンクアグリサポート事業による、担い手向け利子助成、農業振興・環境貢献に取り組む企業経営体を支援する投資、農業ファンの拡大・地域の発展に貢献する食農教育応援等）

JAバンクグループの農業者等に対する取り組み①

農林中央金庫

～ JAバンクグループが一体となった農業担い手支援 ～



JAバンクグループの農業者等に対する取り組み②

農林中央金庫

- JAバンクとして農業者等に対する資金対応をはじめ、利子助成事業等の各種対策を実施
- JAバンクアグリ・エコサポート基金を通じて、JAバンクアグリサポート事業を展開

主要な農業資金の残高推移（単位：億円）

残高実績	2007年 3月期	2008年 3月期		2009年 3月期
	3月	9月	3月	9月
アグリマイティ 資金	1,130	1,163	1,073	1,156
アグリビジネス ローン	82	96	119	129
JA農機ハウス ローン	738	785	756	845
アグリ スーパー資金	2	5	6	9

JAバンクの取組状況

要綱資金 (創設年度)	アグリビジネスローン(2005), JA農機ハウスローン(2006) アグリスーパー資金(2006), 担い手応援ローン(2008)
各種対策	<u>米特別対策資金にかかる利子補給(2007)</u> ■ 「平成19年産米特別対策資金」に対する利子補給事業を 新設(実績42件40百万円) <u>JAバンク農業生産資材価格高騰対策利子助成事業(2008)</u> ■ 生産資材価格高騰の状況に鑑み、事業運転資金に対する 利子助成事業を創設(助成金交付は2009年度実施予定)

JAバンクアグリサポート事業の取組状況

利子助成事業	■ JAが融資する農業資金に対し利子助成を実施 ■ 2008年度は、31,864件、495百万円の助成金交付を決定
投資事業	■ 農業振興、環境貢献等に取り組む企業経営体に対し、ア グリ・エコファンドを通じた資本提供・育成支援を実施 ■ 2008年度は、4社に対し208百万円の投資を実行
食農教育 応援事業	■ 食農教育のオリジナル教材を20,896校の小学校に贈呈 ■ 全国のJAの食農教育等の取組みに対する助成を実施
食と地域の 文化発信事業	■ NHK「きょうの料理」テキストへの記事掲載や、地域イベン ト等の開催を通じ、農業生産の現状等の情報を発信

出所：農林中央金庫(上記表における農業資金については、独自調査により算出しております。)

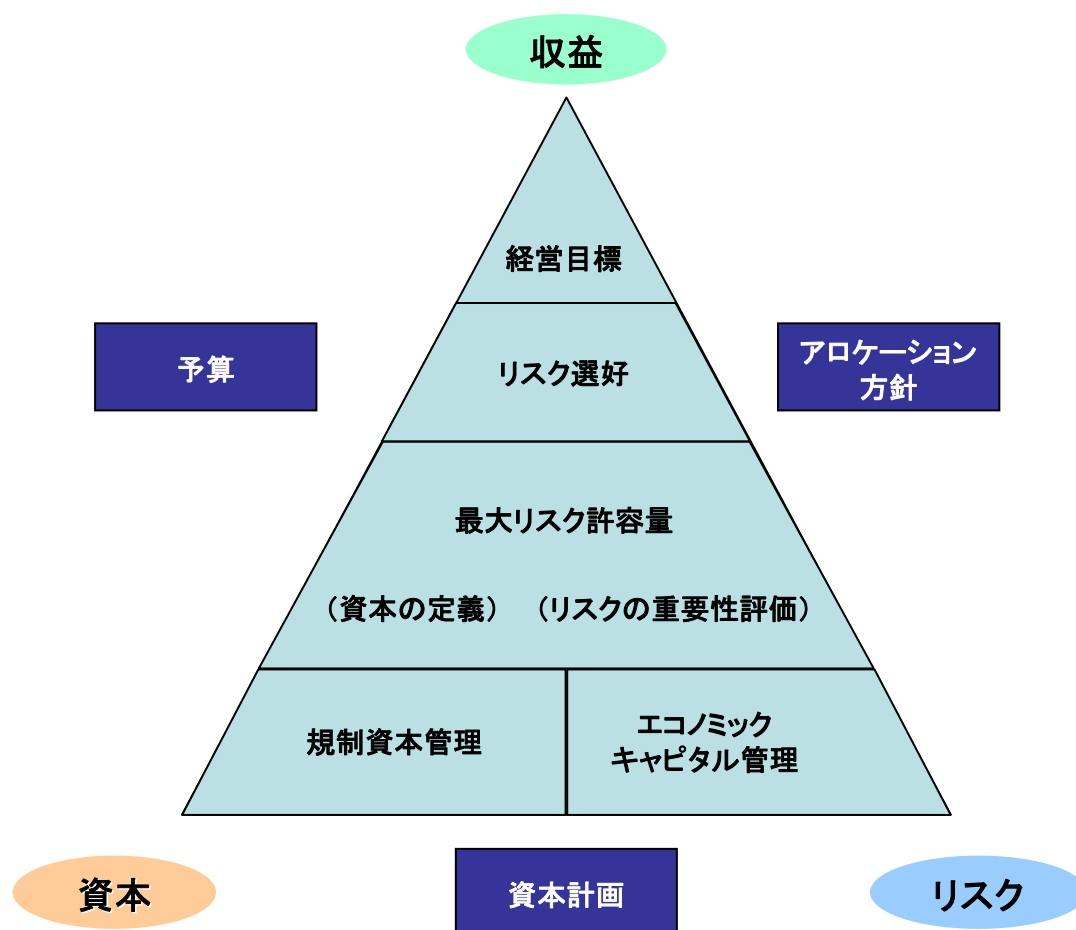
参考資料2（農林中央金庫関連）

2008年4月以降のアップデート

2008年4月	連結子会社農中情報システム(株)およびジェイエイバンク電算システム(株)の合併
2008年5月	三菱UFJニコスの持分法適用関連会社化に関する基本合意を発表(2008年8月株式譲渡契約締結)
2008年7月	福島県・熊本県信農連との全部事業譲渡契約書の締結を発表
2008年10月	JAバンクと三菱東京UFJ銀行がATM・CD相互無料開放を実施
2008年10月	クレディ・アグリコル・エス・エーの株式約0.5%を取得
2008年10月	福島県信用農業協同組合連合会との統合
2009年1月	熊本県信用農業協同組合連合会との統合
2009年3月	上野代表理事理事長の退任および河野副理事長の理事長選任
2009年3月	会員からの1兆9千億円規模の増資を実施
2009年4月	経営安定化計画の発表

～ 高度な自己資本充実度評価プロセス ～

- 2008年3月期から自己資本の充実度評価プロセス(Internal Capital Adequacy Assessment Process=ICAAP)を実施。
- 経営環境および業務運営方針の変化に対応し、資本管理を高度化、リスク選好を見直し



1. リスク選好

- 経営の健全性を維持しつつ、会員等に対して安定的な還元を行うことが、最も重要な役割であることを確認
- 経営戦略遂行のために必要なリスクの種類及び規模の認識
 - 国際分散投資を基本コンセプトとする安全・安定を重視したポートフォリオ運営
 - ストレス状況にも耐え得る自己資本の確保と十分な流動性の維持

2. 最大リスク許容量の設定

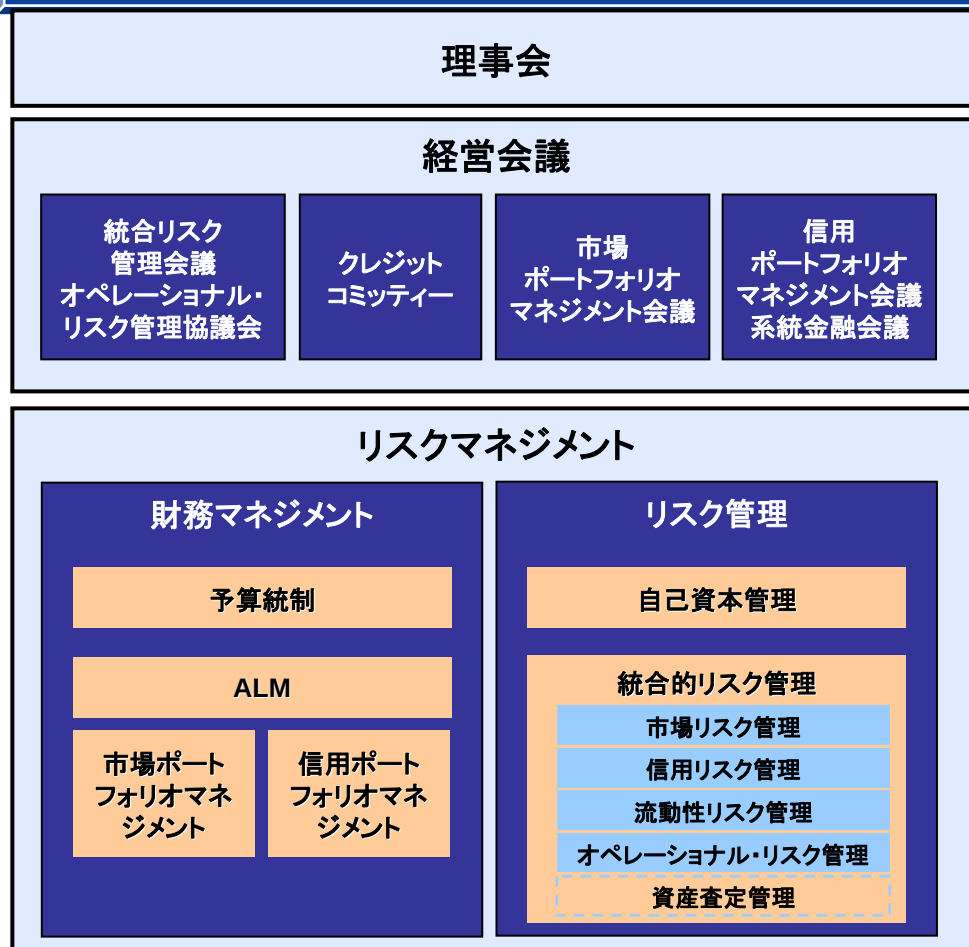
- 重要なリスクについて許容可能な最大値を設定
 - 重要なリスクの種類: 市場リスク, 信用リスク, オペレーショナル・リスク
 - これらのリスクをカバーする資本と最大リスク許容量の定義

3. リスク選好と最大リスク許容量との整合性を確認

- 規制資本管理およびエコノミックキャピタル管理において、チェックポイント設定やストレステストの実施などを通じ、リスク選好に基づき定量的に認識されるリスク量が、最大リスク許容量として表される資本量を超えておらず、また超えるおそれがない状況にあることを確認

～ 高度なリスク管理体制 ～

- エコノミックキャピタル管理を中心的機能として、リスクを統合的に管理していく仕組みとしての「統合リスク管理」を実践
- 2009年3月期は、国際的な各種提言やストレステスト等を活用したリスク分析の高度化、適切な公正価値算定にかかる態勢整備を実施



1. 理事会

- 中期経営計画、業務計画、エコノミック・キャピタル管理および運営、予算といった経営目標を決定。また、自己資本充実度評価プロセス(ICAAP)を実施
- 内部監査及び外部監査からのフィードバックをもとに、リスク管理体制の状況を把握

2. 経営会議

- 統合リスク管理会議において、エコノミック・キャピタルや規制資本管理、理論価格の取扱いにかかる重要事項を協議・決定
- そのもとで、市場・信用ポートフォリオマネジメント会議等において具体的なポートフォリオ運営方針を決定

3. リスクマネジメント

- 統合的リスク管理として、市場リスク、信用リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスクを個別に管理する部署と、それらを統合的に管理する部署を設置して、それぞれの役割と責任を明確化
- 統合的リスク管理と一体となった形で、市場の変動や経済・金融環境の変化のなかで、リスク、収益、資本のバランスを慎重に見極め、健全性と収益力に配慮した柔軟な財務マネジメントを実現

～ 農林中央金庫としての機能提供～

- JAバンクグループあがての担い手支援の取組みの中で、JA・JA信農連・農林中央金庫が一体となって、「担い手のメインバンク」としての地位確立・機能発揮を目指している
- 農林中央金庫はJA・JA信農連と連携しつつ、以下の取組みを実施

担い手金融リーダーを軸とした体制整備・人材育成支援

- ハーベスト(担い手金融リーダー等の専用情報交換ツール)の提供
- 全国大会(年1回)・研修会(年2回)を継続開催
- 各県域の研修会等へ出講、意見交換を実施

担い手向けの各種対策・資金・資材等

- 2007年産米特別対策資金にかかる対応
- 2008年度JAバンク農業生産資材高騰対策利子助成
- 資金(全国要綱)・資材等の提供
 - (資金) ・JA農機ハウスローン ・担い手応援ローン
 - (資材等) ・農業融資推進ハンドブック ・担い手金融ポケットブック
 - ・担い手金融リーフレット

JAバンクアグリサポート事業

- 実施主体「JAバンクアグリ・エコサポート基金」の立ち上げ(2007年6月)、事業の実施
- 利子助成事業
- 投資事業
- JAバンク食農教育応援事業
- 食と地域の文化発信事業

JA事業間連携にかかる取組み(全国連)

- JAグループ担い手対応連絡協議会の立ち上げ
- 農業経営管理支援(全中主導)の展開支援
- 農機具を軸とした事業間連携の取組みへの着手
- JAグループ国産農畜産物商談会の開催(2009年2月)
- 全国担い手育成総合支援協議会への参画

農業再生への取組支援

- 農業再生委員会の設置(6県域)、処理案件の積み上げ
- 農業再生委員会の設置・利用促進に向けたサポート

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等については何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。当金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、当金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提(仮定)の下になされています。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。